

関東歴史教育研究協議会神奈川大会

関東歴史教育研究協議会神奈川大会の経緯

歴史分科会会長 川 島 敏 郎

一、関東歴史教育研究協議会の発足について

関東歴史教育研究協議会（以下、関東研と略す）は、東京都歴史教育研究協議会会長であった渡辺忠胤先生（当時、都立南多摩高等学校校長）が設立発起人代表となり、一九八六（昭和六一）年一月一五日、東京都教育会館で設立総会が開催され、結成の運びとなった。その構成員は、関東七都県の歴史教育研究会とし、会長は輪番制とし当該年の研究団体の長が任に就くこととした。活動内容としては、①研究大会の開催、②機関誌の交換、③研究刊行物の紹介・幹旋、④その他（各都県間の情報交換・提供）などが挙げられる。

翌年は、全国歴史教育研究協議会（以下、全歴研と略す）が神奈川県で開催され、翌々年は同大会が東京都で開催されたため、関東研は実施されなかった。それ故、事実上のスタートは一九八九（平成元）年の栃木県からで、第二回東京都、第三回茨城県、第四回千葉県順に実施されて来た。神奈川県の開催は第五回大会である。

二、第五回関東研神奈川大会について

神奈川県での開催に向け、当時の歴史分科会会長北村幹雄（現久里浜高等学校校長）を中心に運営委員会で検討を重ねた結果、一九九四（平成六）年三月四日（金）の春季研究発表会を関東研大会に代替して実施することに決定した。開催場所として横浜市開港記念会館を会場に選定し、横浜開港に関わる史跡見学（二時間程度）を

行うという原案がまとまった。翌年度に入り、春季社会科部会総会で新しい歴史分科会役員が選出され、その後の第一回運営委員会において、「関東研神奈川大会実行委員会」が組織されるに至った。

三、神奈川県教育委員会等への後援依頼

関東研神奈川大会を開催するに当たり、神奈川県教育委員会の後援と補助金（二〇万円）の申請を、前歴史分科会長名で、神奈川県教育委員会教育長宛に提出した。六月、北村幹雄前分科会会長、後藤正吉分科会副会長、三杉克篤分科会会長（現厚木西高等学校校長）の三名で、県教育庁高校教育課に、助成金支給の可否と後援依頼をかねて訪問した。県財政緊縮の折ではあったが、県教育委員会の補助金支給研究団体に該当するとして交付金の支給を受けた。

また、開催会場となる横浜市開港記念会館の会場使用許可申請については、六カ月前に申請し、抽選で決定するという手順であったが、同館長のお話しによれば、横浜市教育委員会の後援を得ておけば、事前に優先的に会場を押しさえることができるということで、かつて分科会史跡踏査委員会で活躍された佐藤安平先生（当時、横浜市立港商業高等学校教頭）のご尽力を頂き、九月段階で同会館を確保することができた。

四、研究テーマの設定と講演講師の依頼

日本史研究推進委員会は、一九九三（平成五）年から新たに「戦争と地域・民衆」という共同研究テーマを設定し、関東研大会でもこれに即して研究発表することに決定した。この研究成果は、後に『研究集録 神奈川の戦争と民衆』（一九九七年）として一冊にまとめられた。

世界史研究推進委員会は、「ものを切り口とした世界史」という

共同研究テーマを設定し、話題性に富み授業に即役立つ研究発表をもつて関歴研に臨むことになった。この研究成果も、『ものを切り口とした世界史』（一九九九年）として一冊にまとめられた。

午後の講演会の内容充実も、大会そのものを盛り上げる大切な要素であり、今回の講演会の担当は世界史研究推進委員会で、東京大学文学部助教授の近藤和彦先生をお招きして、「近代史の再構成」と題して、二時間にわたる講演をお願いした（講演要旨は、「歴史分科会研究報告 第二二号」に掲載）。先生は一九九三年度から授業展開が始まる「世界史A」の教科書執筆者のお一人でもある。

五 史跡見学について

大会終了後に実施される見学会は、授業実践に役立つ「文明開化の横浜と二一世紀の横浜」をテーマとして、史跡踏査委員会が計画が進められた。『神奈川県歴史散歩 上巻』の横浜地区の執筆者の一人である北村幹雄前分科会会長を講師に決定し、数回にわたる下見を重ねた。作成資料に基づき、県外からの参加者も含め、総勢三五名とともに有意義な一時を過ごすことができ、第五回神奈川大会は成功裡に終了した。

六 二巡目の関歴研神奈川大会について

前回の神奈川大会をベースに、概ね次ページに示したような実行委員会組織を形成して大会に臨んだ。今回は神奈川県教育委員会の共催、横浜市教育委員会の後援は頂いたものの、折からの財政難のため、助成金の交付は望むべくもなかった。また、会場についても横浜市開港記念会館が工事中であったため、かながわ県民センターを一年前から予約し、無料で使用させて頂いた。

午前中の研究発表では、日本史・世界史研究推進委員会からそれ

ぞれ二名ずつの発表者を立て、「神奈川における西洋文明との出会い」、「イスラーム世界の教材化」のテーマに基づいた研究報告が行われた。県外参加者（二七名）も交えて、それぞれの会場では熱気溢れる質疑応答が展開されたことは望外の喜びである。

午後の部では、久留島浩先生（国立歴史民俗博物館助教授）をお招きして、「博物館で歴史教育を考える」と題する講演を拝聴した。常日頃から一方的な講義式教授法にとっぷりと嵌まってしまった我々にとつて、歴史資料の調べ方・学び方・扱い方など、二〇〇〇年三月末日に告示された新学習指導要領に關説した、実に示唆に富む刺激的な内容で深い感銘を受けた。

講演会の余韻も覚めやらぬ間に、史跡踏査委員会による神奈川宿の巡検に突入した。参加者は四五名（県外参加者が多数）にも及んだ。幕末の神奈川宿という狭い空間の中に存在する寺院を巧みに利用して、勢力の伸張を図った外国勢力の狙いが垣間見られた感じがした。高島台から仲木戸まで約一時間半を踏破した後、久留島先生、全歴研会長飯田先生、都歴研会長増田先生を囲んで歓談した。一日の疲れも一気に霧散した思いである。

七 第四二回全歴研神奈川大会に向けて

関歴研は無事終了したものの、来年度は七月三〇日〜八月一日にかけて、全歴研神奈川大会が神奈川大学横浜キャンパスを拝借して行われる。これには全国から三〇〇名以上の小中高の歴史担当の先生方が参加する予定である。分科会では新学習指導要領の柱となる総合的な学習の時間に関わる提案のほか、日本史、世界史、日世合同・共通のテーマに基づく提案も掲げられている。県内からも一人でも多くの先生方の参加・ご協力をこの場を借りてお願いする次第である。

関東歴史教育研究協議会（関歴研）神奈川大会（2001/3/12・月）

実 施 要 項

1. 期 日 2001(平成13)年3月12日(月)
2. 主 催 関東歴史教育研究協議会
神奈川県高等学校教科研究会・社会科部会・歴史分科会
3. 共 催 神奈川県教育委員会
- 後 援 横浜市教育委員会
4. 会 場 かながわ県民センター(神奈川県横浜市鶴屋町2-24-2、TEL 045-312-1121)
5. 内 容 ① 関歴研開会式(20~30分、大ホールにて)
② 研究発表(日本史・世界史研究推進委員会担当)
③ 講演会(日本史研究推進委員会担当)
④ 史跡見学(史跡踏査・出版委員会担当) 2時間程度で、荷物を持って移動
6. 日 程

受 付	9:30~10:00	庶務/打ち合わせ 302号室
開会式	10:00~10:20	大会委員長・来賓・顧問挨拶、日程説明
研究発表会	10:20~11:40	日本史・世界史研究推進委員(各2)
昼 食	11:40~12:30	関歴研関係の理事会
講演会	12:30~14:30	日本史研究推進委員会 大ホールにて
閉会式	14:30~14:40	終了後に史跡見学コース説明
史跡見学	15:00~16:30	コース選定・ガイド
7. 実行委員会
 - ◇大会委員長……………川島敏郎《分科会会長》
 - ◇大会副委員長……………大島弘尚・石橋功・岡田 健《本部役員》
 - ◇総務……………大会副委員長《大会準備委員》
 - 県教育委員会との交渉、予算と事業計画、日程調整、参加費(1,000円、含む資料・昼食代)、大会要項冊子作成
 - ◇庶務……………日本史・世界史研究推進委員会《書記・各副委員長・出版委員会》
 - 接待、弁当の手配、案内作成
 - ◇会計……………児玉祥一・渡辺和雄・後藤孝幸《会計・会計監査》
 - 参加費の徴収
 - ◇記録……………坂井久能《出版委員会》
 - ◇受付・案内……………児玉祥一・大久保敏朗、渡辺一弘《テスト委員会》
 - ◇会場設営……………《日本史・世界史研究推進委員会》
 - ◇司会……………小島正《本部役員》○開会式・閉会式
 - ◇研究発表
 - 【日本史】301号室
 - 風間 洋(鎌倉学園高校)「鎌倉府体制下の武家社会
—室町期都市鎌倉における武家奉公の諸相—」
 - 高橋正一郎(県立相模原高校)「近代と民衆」
 - 【世界史】305号室
 - 石橋 功(氷取沢高校)「世界史教育の中でイスラームをどのように扱うか」
 - 松木 謙一(県立横須賀工業高校)「伝説の巨鳥たち
—イブン=バトゥータ・マルコ=ポーロ・アラビアンナイト—」
 - ◇講演講師《日本史研究推進委員会》
 - 久留島 浩先生(国立歴史民俗博物館助教授)「博物館で歴史教育を考える」
 - 講師紹介;伊東光弘、講演記録(テープ);白川重敏、写真;矢野慎一
 - ◇史跡見学…三橋景子・渡辺弘一 《県内外史跡踏査、出版委員会》
 - 神奈川宿の巡検コース
 - ◇反省会 《本部役員》講演講師・歴史分科会・他県参加者